

首

都キガリの国際空港から程近い路地に立つ小さな店に、若者が次々と入っていく。表の看板には「INTERNET」や「COMPUTER」の文字。一体、何の店だろう？

ここはインターネットカフェ「HANGA」。オープンしたばかりだが、店内の3台のパソコンは満席で、順番待ちの客もいる。運営するのは、内戦で障害を負った13人の除隊兵士が設立した協同組合。彼らは、JICAの「障害を持つ除隊兵士の社会復帰のための技能訓練プロジェクト」の支援で、コンピューターの技能訓練を受けた後、その技能を生かして別の地域でネットカフェを開いた。だが、停電が多くて商売にならず、この地域に引越してきたという。

ルワンダでは内戦後、除隊兵士の社会復帰が進められているが、障害者に技能訓練を行う機関が限られ、障害を持つ除隊兵士の多くが生計を立てるための技術を習得できず、社会復帰の機会が絶たれ、将来への希望を失っていた。JICAは、そうした除隊兵士の経済的・社会的自立を目指すプロジェ

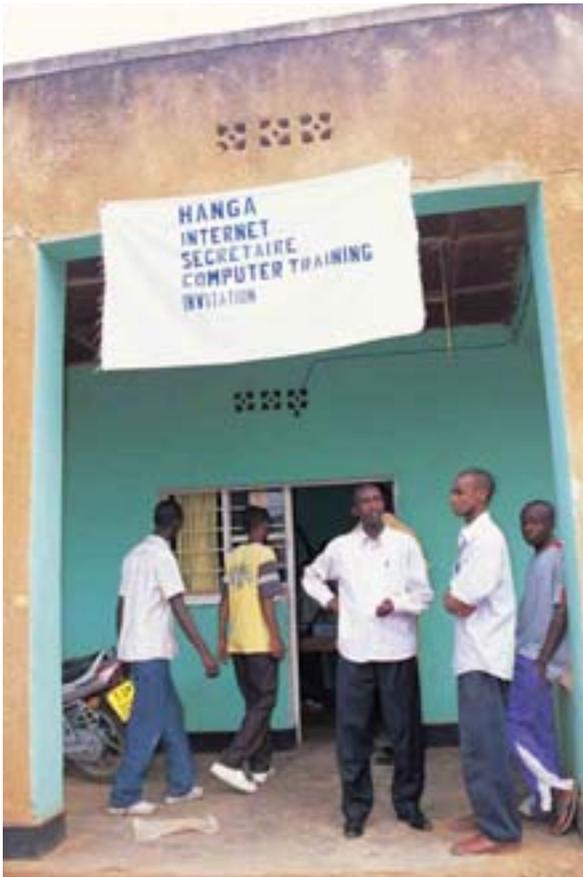
Close Up!

ジャイカの
あしあと

[ルワンダ]

除隊兵士の手に “平和”を つくる技術を

内戦後、生きる術がなく、将来への希望を失っていたルワンダの障害を持つ除隊兵士たち。しかしJICAの支援で技能訓練を受け、新しい人生を歩み始めている。



クトを2005年12月に開始し、全国10カ所の既存の技能訓練センターで縫製・溶接・コンピュータなどさまざまな技能訓練を実施しているほか、就職・起業支援、協同組合設立支援なども行っている。これまでに839人が訓練を受け、625人が卒業した（08年3月現在）。調査によると、卒業生の82%が訓練を受ける前よりも幸せになったと答え、95%が将来への展望を持てるようになったという結果が出ている。

卒業生の一人、ンダヒマナさん（写真中央）は戦争で負った傷が体中に残り、銃弾が入ったままのところもあるという。それでも「訓練を受けて人生が大きく変わった。チャンスがあればもっと学びたい」と意欲を見せる。

店の名前「HANGA」は「創造する」という意味。武器を捨てた除隊兵士たちが新たに手にした技術で、平和な国づくりに貢献してくれることを願う。

